

発掘ニュース

第 33 号

平成 4 年 6 月 29 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

大仁田遺跡の遺物

——縄文時代・古墳時代の生産活動を示す遺物——

大仁田遺跡は、常磐西郷字大仁田にあります。今年2月、個人住宅建設に先立ち発掘調査が実施されました。遺跡は小河川の河岸段丘沿いにあり、以前からその存在が知られていました。磐崎地区で初めての発掘調査であり、多くの見学者がありました。

縄文時代の遺物の中に、貝塚以外では残りにくい鹿角製の釣り針や弓の部品である弰(ゆはず)があり、漁撈や狩猟の道具として貴重な発見となりました。また古墳時代の竪穴住居跡からは、双孔円板・剣・白玉等祭祀に用いる石製模造品が検出されました。大型の砥石が共伴しており、石製模造品の製作工房であったと考えられます。



遺跡見学 (磐崎小児童)



砥石(とじ)出土状況

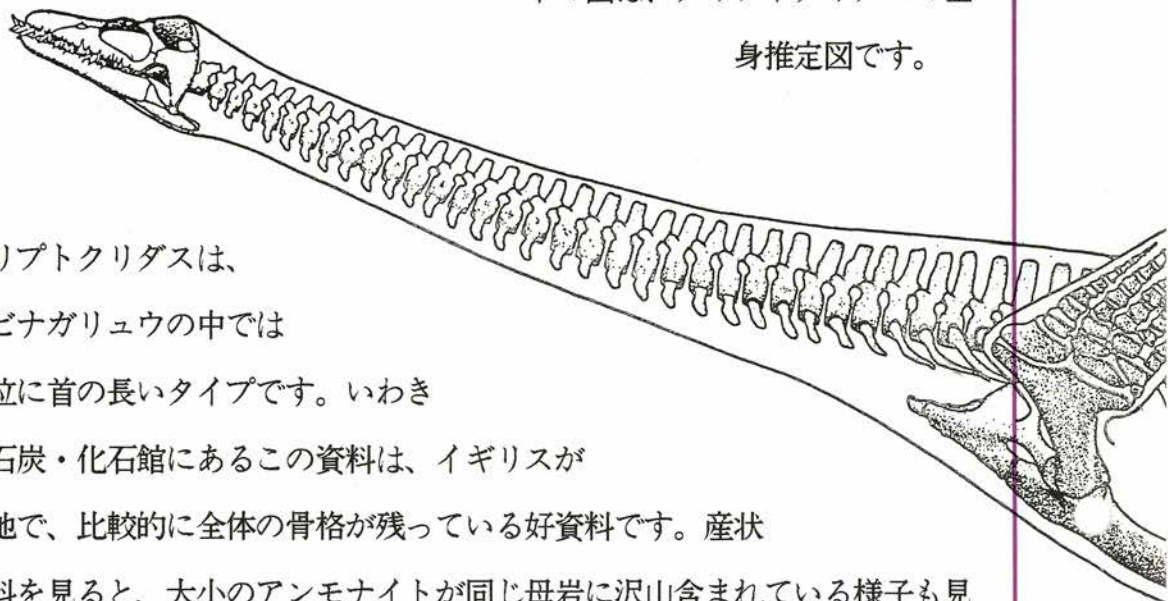
古生物クリーニング作業

「クリプトクリダス」

クビナガリュウ類

本年度古生物関係の委託事業として、クリプトクリダスのクリーニング作業が進んでいます。今までいわき市石炭化石館に展示され、一般に公開されていた資料です。母岩の中に埋もれている骨も多く、クリーニングをしてより明確に産状がわかるようにします。同時にその産状模型の製作を行います。

下の図は、クリプトクリダスの全身推定図です。



クリプトクリダスは、クビナガリュウの中では中位に首の長いタイプです。いわき市石炭・化石館にあるこの資料は、イギリスが産地で、比較的全体骨格が残っている好資料です。産状資料を見ると、大小のアンモナイトが同じ母岩に沢山含まれている様子も見てとれます。

時代はジュラ紀ですから、今から約1億6千5百万年前で、オックスフォード泥岩層と呼ばれる地層の中から発見されました。上腕骨末端部が広がり頭骨は多歯化しているのが特徴です。

当事業団の古生物整理室では、専門の係の人が毎日電動カッターとタガネとハンマーを持ち、防塵メガネとマスクをかけてクリーニングを行っていま

す。細心の注意を払って母岩を砕き、骨格標本を傷付けないように作業しなければなりませんので、体力とともに神経を使う作業でもあります。

昨年は別のクビナガリュウの骨格標本クリーニングと、骨格組立て作業を行いました。母岩から一本一本骨を取り出し実際の形に組み立てて行き、不足する骨格はその形態大きさ等を研究しながら復元していきました。根気と頭脳を使う作業だったと言えます。

このほかにも、古生物の委託事業としていろいろな業務を行っています。いわき市内から発見されたクジラ化石ほかのクリーニングや、いわき市石炭化石館収蔵の化石資料をコンピューターに登録し、データ化する業務もあります。このように、地球の歩みを示す各種化石について、いわき市は積極的に保護保存に取り組んでおり、市民への公開施設も、湯本の石炭化石館のほかに、海竜の里が大久町に昨年オープンしております。

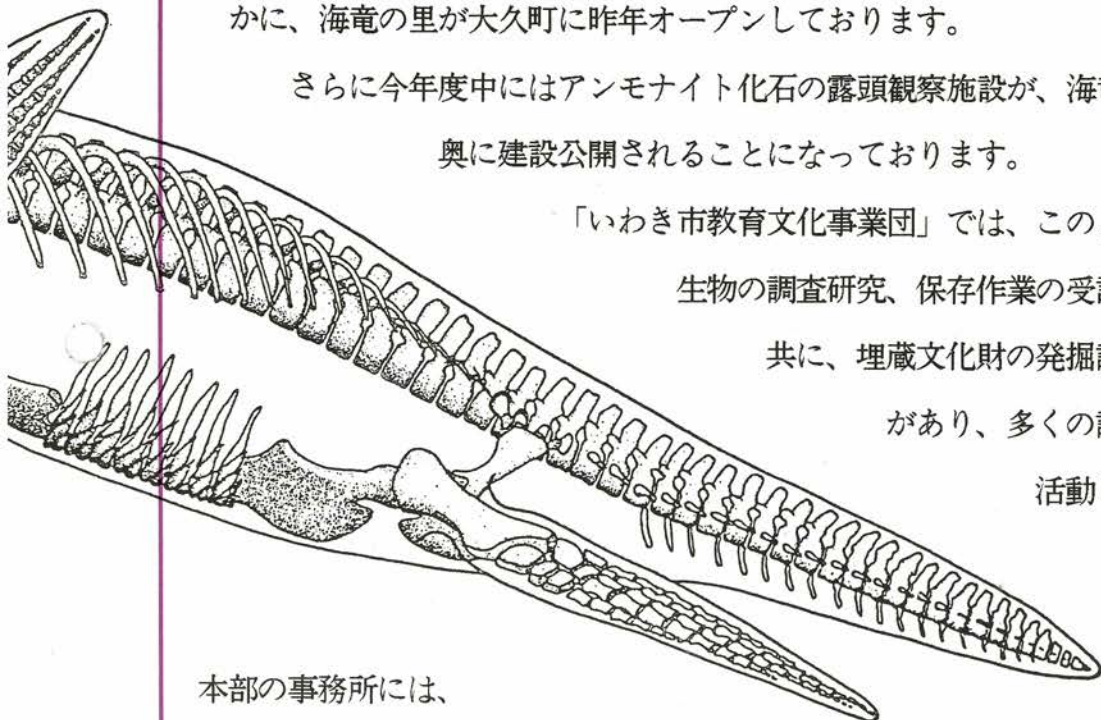
さらに今年度中にはアンモナイト化石の露頭観察施設が、海竜の里の奥に建設公開されることになっております。

「いわき市教育文化事業団」では、このような古生物の調査研究、保存作業の受託事業と共に、埋蔵文化財の発掘調査業務があり、多くの調査員が活動しています。

本部の事務所には、

小規模ながら市所蔵の化石や

埋蔵文化財の展示室もあり、平日は公開しておりますので、ご覧ください。





文化財友の会本年度事業案内

❖本年度努力目標

- ・友の会を広く市民に知らせ、会員数の拡大につとめたい。(一人の会員が一人の新会員を紹介いただくと、それだけで会員数は倍になります。)
- ・可能な範囲で、事業内容をより充実させたい。(会員の皆さんの要望を事務局までお伝えください。)

❖事業計画

- 1, 遺跡発掘現地説明会の案内。
- 2, 「発掘ニュース」の配布。
- 3, 事業団刊行物の案内。(報告書等の頒布)
- 4, 事業案内。(関連事業も含む)
 - ・事業団創立15周年記念文化財展覧会。(平成5年2月予定)
 - ・「第19回古代城柵官衙遺跡検討会」が上記の展覧会にあわせて、いわき市で開催されます。
- 5, 文化財めぐりバスツアー予定
 - ・第1回：テーマ「ちょっと離れた所の文化財」7月日曜日実施予定。
 - ・久之浜、楢葉町方面 ・7月日曜日実施予定。
 - ・第2回：テーマ「あぶくま山地の発掘現場と周辺の文化財」
 - ・差塩、小野町方面 ・秋期平日実施予定。

❖文化財友の会事務局 いわき市中央台県立いわき公園内

- ・入会申込は——年会費500円を添えて事業団事務局へ。

